【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成16年10月28日(2004.10.28)

【公開番号】特開2001-276000(P2001-276000A)
【公開日】平成13年10月9日(2001.10.9)
【出願番号】特願2000-95425(P2000-95425)
【国際特許分類第７版】
　Ａ６１Ｂ　5/0245
【ＦＩ】
　Ａ６１Ｂ　5/02　３２０Ｂ
　Ａ６１Ｂ　5/02　３２０Ｅ
　Ａ６１Ｂ　5/02　３２１Ｂ

【手続補正書】
【提出日】平成15年10月21日(2003.10.21)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】特許請求の範囲
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
生体の被測定部位に光を照射する発光体と、
前記発光体が照射した光に係る前記生体からの反射光を受光して受光量に応じた生体情報信号を生成する受光体と、
前記発光体および前記受光体等を収容するサブハウジングと、
前記受光体の検出する前記生体情報信号から生体情報を計測するメイン基板と、前記生体情報等を表示する液晶表示装置と、電池とを収容するメインハウジングと、
前記サブハウジングと前記メインハウジングとに連結され、前記被測定部位の付近の前記生体の周囲に巻回されて、前記サブハウジング、および前記メインハウジングを前記生体に固定するバンドとを備える生体情報計測装置において、
前記サブハウジングと前記メインハウジングとは手首周方向に隣接し、かつ前記サブハウジングと前記メインハウジングとの連結部は回動するように連接されていることを特徴とする生体情報計測装置。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００７
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００７】
【課題を解決するための手段】
上記課題を解決するため、本発明に係る生体情報計測装置は、
生体の被測定部位に光を照射する発光体と、
前記発光体が照射した光に係る前記生体からの反射光を受光して受光量に応じた生体情報信号を生成する受光体と、
前記発光体および前記受光体等を収容するサブハウジングと、
前記受光体の検出する前記生体情報信号から生体情報を計測するメイン基板と、前記生体情報等を表示する液晶表示装置と、電池とを収容するメインハウジングと、
前記サブハウジングと前記メインハウジングとに連結され、前記被測定部位の付近の前記

生体の周囲に巻回されて、前記サブハウジング、および前記メインハウジングを前記生体に固定するバンドとを備える生体情報計測装置において、
前記サブハウジングと前記メインハウジングとは手首周方向に隣接し、かつ前記サブハウジングと前記メインハウジングとの連結部は回動するように連接されていることを特徴とする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
また、メインハウジングとサブハウジングを手首周方向に隣接させ、かつその連結部が回動するように連接させることにより、生体の大きさのばらつきによる手首径のばらつきに応じて連接部分の角度が変化して、サブハウジングが生体に対して常に密着するため、脈波センサユニットが検出する生体情報信号に付加されるノイズが低減され、メイン基板が計測する生体情報の精度が向上する。
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１２
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１２】
（１）実施形態
（１－１）装置の概略
図１に示すように、本発明に係る実施形態の生体情報計測装置は、腕時計型であるとともに、各種の電気部品または電子部品を内蔵し、連結部が回動するように連接されたメインハウジング１０およびサブハウジング２０と、メインハウジング１０およびサブハウジング２０に連結され、手首に巻回されてメインハウジング１０およびサブハウジング２０を腕に固定するリストバンド３０とを備えて構成されている。
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００３９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００３９】
メインハウジング１０とサブハウジング２０との連結部は回動するように連接されている。例えば、図２に示すように、公知のばね棒により連接される。
【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４３
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００４３】
次に、このように、ハウジング１をメインハウジング１０とサブハウジング２０に分割し、連結部が回動するように連接した効果について、図１１および図１２を参照して説明する。
【手続補正７】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００４６
【補正方法】変更

【補正の内容】
【００４６】
一方、図１２（ａ）は、上記実施形態のメインハウジング１０およびサブハウジング２０を有する生体情報計測装置を被験者の手首Ｗに装着した状態を示す。この場合には、メインハウジング１０とサブハウジング２０との連結部が回動するように接続されているため、手首Ｗをひねった場合、図１２（ｂ）に示すように、メインハウジング１０とサブハウジング２０が手首Ｗの形状に追従して動くことにより、手首Ｗに対して高い密着性を示すとともに、メインハウジング１０およびサブハウジング２０の厚さを小さくすることが可能となるため、腕を動かした際の手首Ｗに対するハウジング１の挙動が安定し、ハウジング１の手首Ｗへの密着性が高く保たれる。
【手続補正８】
【補正対象書類名】図面
【補正対象項目名】図１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【図１】

